

令和8年(2026年)6月1日発行

南極地域観測隊への参加と極地での挑戦

山縣准教授体験記 水中ロボットによる観測と船上生活[第1回]

先進工学部ロボティクス学科の山縣准教授が3月6日から26日にかけて、第67次南極地域観測隊に参加した。東南極最大級のトッテン氷河沖で、自身が開発した全自動水中ロボットによる海洋観測を実施した。極地における研究活動、観測船での生活など貴重な体験記を複数回に分けて連載する。



山縣准教授(砕氷船「しらせ」の甲板にて撮影)

私は3度目の南極に挑んだ。空では人工衛星が渋滞し、AIに聞けば自ら考えて検索する必要がない現在において、な

南極地域観測隊は我が国が戦後より始めて今回で67回目。現在、急激な気候変動によって地球の淡水9割を占める南極氷床の融解が加速しており、その状況把握と融解メカニズムの解明という世界的課題について連携し調査にあたっている。



南極域に向かう「しらせ」

さて、かつて接岸が最も難しいとされた東南極リュツォ・ホルム湾をある調査が難しい。そこで水中ロボットの出番だ。水中ロボットには遠隔操作のROVと自律航行型のAUVがある。水中は電場が通りにくいため通信ケーブルが必要なROVでは水に引かかるリスクがある。そこで自ら考えて泳ぐAUVを用

いよう。私は7年前より、このプロジェクトに参加し、AUV「MONAC A-1」の設計から運用まで一貫して実施してきた。64次より参加をはじめ、66次ではリュツォ・ホルム湾とトッテン氷河沖という他国に実績のない海域で運用し、海洋立国としての我が国の存在を世界に示した。67次では更に一歩進んで、氷河に近寄って観測を行うことを目的に合計5回の潜航を実施する予定だった。

今年の航海は66次から始まった2レグ制で、しらは豪州と南極域を2往復する。昭和基地での観測実施後、豪州で海洋観測要員と入れ替えてトッテンに向かうことができた。観測隊員の負担軽減と観測能力増強につながる。私は2レグ目のトッテン観測に参加したため、幸運にも学生の成績評価後の乗船となった。ちなみにスタアリンク普及により陸から成績発表を受けられるようになったのは別の話である。



南極周辺は海が荒れ狂う荒天がある。過去には30度近く傾く。内部の機材が心配であったが、フリマントル到着まで2回の荒天域を体験した後、しらせで無事を確認できた。

出港日、フリマントルでは珍しい雨だった。飛行甲板で帽振れをしていた。次回南極域到着の様子を紹介する。

具体的なお取り組を進めていきたい」と述べた。大野博之校長は、学修支援センターや図書館など学びを支える本学施設の充実を高く評価し「本協定によって、本校生徒の学びが深くなるきっかけが得られれば本当に幸せたと期待した。

執筆者紹介 山縣広和(やまがた ひろかず) 1988年生まれ。2018年、慶大理工学研究科にて博士(工学)取得。東大生産技術研究所特任研究員を経て2025年より現職。2022年の第64次以降66、67次南極地域観測隊(夏隊)に研究観測担当で参加。専門は水中工学、ロボティクス、教育工学。

NIT Open Campus 夢中が見つかる! オープンキャンパス 大学・学部学科紹介、体験授業、入試ガイダンス、個別進学相談、キャンパスツアーなどを実施します。今年度も学生スタッフが中心となって運営を行い、高校生や保護者の皆様により充実した時間を過ごせるイベントを用意しています。初めての方もぜひ、お気軽にお越しください。 2026年の実施日程 ※詳細と予約は右のQRコードからご覧ください 6/14 7/12 7/25・26 8/22・23

国際学院中学校高等学校と連携協定締結

ふれる生徒の更なる資質向上が期待される。協定締結にあたり竹内貞雄学長は、長年にわたる同校生徒が本学に多数入学し、主体的に研究に取り組んでいることに謝辞を述べ「生徒の皆さん

地域の理系人材の育成などを目指す 4月21日、本学と国際学院中学校高等学校(埼玉県伊奈町)の高大連携教育に関する協定締結式が埼玉キャンパスで執り行われた。本協定は高等学校における生徒からの発展的な



協定書を交わした竹内学長(右)と大野校長

一人ひとりが学ぶ喜び、楽しさを感じていただければ、知恵を出し合い、

学園創立120周年・大学設立60周年 埼玉キャンパスリノベーション事業 ご寄付のお願い 開学以来、全ての卒業生が学んだ本館講義棟を新しい時代の学びに向けてリノベーション 主体的、創造的な学びを支える授業環境を構築し、オンデマンド授業、ライブ配信授業の充実を目指します。併せて、双方向のグループディスカッションを可能とするネットワークシステムを整備するなど、埼玉キャンパスのリノベーションを推進します。ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。 改修事業例 全席を可動式機に変更した教室 授業録画・配信設備を導入した教室 概算金額 本館教室関連改修工事 8億円 環境整備工事 2,000万円 学生関連整備工事 1億6,000万円 バリアフリー工事 7,000万円 トイレ改修工事 1億5,000万円 合計 12億円 埼玉キャンパスリノベーション事業を含む「学園創立120周年・大学設立60周年記念建設事業」の詳細、寄付のお申込みなどにつきましては、以下のサイトをご覧ください。 https://nitmb.jp/

令和8年度入学式を挙行

約1100名が学生生活をスタート

4月1日、令和8年度入学式を埼玉キャンパスの体育館において挙行した。保護者も多数参列し、会場の収容定員を超過したため、5号館の大教室にライブ中継会場を設置した。

約1100名が新たな一歩を踏み出した。保護者も多数参列し、会場の収容定員を超過したため、5号館の大教室にライブ中継会場を設置した。

中々「面白い、もっと知りたい」という気持ちこそが、学びを楽しい境地へと導く。「知る」を超えて「楽しむ」学びへと到達できるように、本学教職員が全力でサポートする。好奇心のアンテナを広げ、自分だけの学びの旅を始めてほしい」とエールを送った。



入学式・学長式辞



ウェルカムセレモニー

柳澤章理事長は「新入生諸君が立派に成長し、巣立っていくためには、一歩前へ足を踏み出す勇気が必要だ。本学では、そのための様々な仕組みを用意している。社会の求めに耳を澄ませ、目を凝らし、一歩前に踏み出すことのできる技術者になることを目指し、本学で学んでいただきたい」と祝辞を送った。

新入生勧誘のための「春祭り」開催

学生自治会主催の「春祭り」が4月6日、本館と5号館にて開催された。委員会、体育系・文化系クラブ、各種サークルから多くの団体が参加し、新入生勧誘を目的とした展示や体験型イベントを実施した。



式典に続き、ウェルカムセレモニーを開催した。在学生たちが中心となり、学修支援センター、タートル、カレッジマイスター、カレッジマイスター、学生自治会活動などについて新入生に紹介した。

学業奨励奨学金・大川陽康奨学金

学部生111名、大学院生25名を認定

両奨学金の認定証授与式が4月22日と24日、5号館1階のチューデントプラザにおいて催された。

学業奨励奨学金は学部生111名、大学院生25名を認定した。認定者は、前年度1年間の成績が特に優秀であったエクセレント・スチューデント（ES）に年額50万円、それに準ずるリマーカーナル・スチューデント（RS）に年額20万円が授業料減免の形で交付される。今年度、3学部3学年合計の認定者はESが33名、RSが78名であった。



大川陽康奨学金受給者

入試情報

2027年度入試 主な変更点

◆**出願期間について**
2027年度入試においても、2026年度入試からの運用を継続し、全入試で試験日および出願締切日は例年通りとしつつ、出願開始日は早めに設定している。これにより、受験生がより計画的に準備を進めやすい日程となっている。

事前提出型小論文・筆記試験（へと選考方法を見直し、面接試験は廃止した。小論文は出願時に提出する形式とすることで、試験当日の負担を軽減している。あわせて、数学・英語の筆記試験の解答時間を120分から90分へ変更。さらに、入学手続締切日を一般選抜Aの1次締切日と同日に設定し、昨年度より手続期間を延長した。これにより、早期に合格を確保しつつ、他大学の一般選抜を見据えた柔軟な進路選択が可能となる。

その結果、成績上位者に対し、授業料減免として100万円を8名、50万円を14名に交付し、さらに入試奨学金として16名に20万円を交付した。計38名が奨学金の対象となった。

大川陽康奨学金は学業成績優秀な大学院生を対象とした給付型奨学金。故大川陽康前理事長の寄付による基金が原資となっている。今年度の認定者は、前年度に比べて増えた。今年度の認定者は、前年度に比べて増えた。今年度の認定者は、前年度に比べて増えた。

大川陽康奨学金は学業成績優秀な大学院生を対象とした給付型奨学金。故大川陽康前理事長の寄付による基金が原資となっている。今年度の認定者は、前年度に比べて増えた。今年度の認定者は、前年度に比べて増えた。

竹内学長は、認定者に対し「長い人生の中で、成功体験を得ることは貴重。特に皆さんは、大学生活で学業奨励奨学金となった。これからも幅広い分野で活躍し、成功体験を積み重ねていただきたい。そうした経験が、社会で活躍するための礎となる」とエールを贈った。



竹内学長は、認定者に対し「長い人生の中で、成功体験を得ることは貴重。特に皆さんは、大学生活で学業奨励奨学金となった。これからも幅広い分野で活躍し、成功体験を積み重ねていただきたい。そうした経験が、社会で活躍するための礎となる」とエールを贈った。

2026年度 科学研究費助成事業内定

4月1日、日本学術振興会より本年度科学研究費助成事業の交付内定が通知され、本学では新規8件、継続34件の研究課題に対し助成交付が内定もしくは決定された。

本学教員の研究課題の範囲はものづくりの基盤を支える技術から、AIやIoTといったDX関連などの先端技術、人文社会分野に至るまで多岐にわたっている。

令和8年度（2026年度）科学研究費助成事業 交付決定者・内定者一覧

研究種目	学科	職	研究代表者氏名	継続/新規	採択年度	研究課題
基礎研究(C)	共通教育学群	准教授	吉田 要	新規	2026	家畜とエミリー・ディキンソン——動物、農業、科学
基礎研究(C)	共通教育学群	講師	内藤 貴仁	新規	2026	L ∞ 代数によるループホモロジー環の構造解析
基礎研究(C)	建築学科	准教授	伊藤 大輔	新規	2026	避難所におけるシート型蓄光材を用いた個室居住空間の夜間照明の提案
基礎研究(C)	建築学科	准教授	野口 憲治	新規	2026	シーボルトコレクション・長崎・和歌山の町家とおおてみた丸棧瓦の地域的特徴
基礎研究(C)	情報メディア工学科	教授	勝間田 仁	新規	2026	生成AIを活用した学習者適応型ヘアプログラミング支援システムの開発
基礎研究(C)	情報メディア工学科	教授	呉本 亮	新規	2026	AI技術による古琴譜の解読
基礎研究(C)	情報メディア工学科	教授	杉森 順子	新規	2026	人とAIで創る自由曲面立体物プロジェクションマッピング支援システム
基礎研究(C)	機械工学科	教授	張 暁友	新規	2026	埋込み可能な人工腎臓用反発型磁気軸受とモータを一体化した遠心分離ポンプの研究
若手研究	情報メディア工学科	助教	兼松 圭	転入・継続	2025	空間的・時間的文脈による中心小窩の色知覚メカニズムの解明
若手研究	電気情報工学科	助教	小原 翔馬	転入・継続	2025	リザーブコンピューティングを用いた間欠性カオスの予兆検知
若手研究	電気情報工学科	助教	佐藤 佑樹	転入・継続	2024	変光天体即時分類深層学習モデルの開発による銀河系中心領域の恒星の年齢分布の解明
若手研究	データサイエンス学科	助教	橋本 泰裕	転入・継続	2024	コーチと選手の感覚を一致させるためのMixed Realityを用いた教示課題
若手研究	データサイエンス学科	助教	久本 峻平	転入・継続	2024	アリから学ぶ協調運搬の同期メカニズム
基礎研究(C)	共通教育学群	准教授	河住有希子	継続	2025	点字デジタル機器で検索可能な生理学・解剖学の語彙データベース構築と学習支援
基礎研究(C)	共通教育学群	准教授	高岡 邦行	継続	2025	日本とネパールにおける数学教育の比較研究：外国人留学生への教科指導の視点から
基礎研究(C)	共通教育学群	教授	梅谷 篤史	継続	2025	拡張現実を用いたデジタルトレンジネスを持つ原子核の生成・構造の高精度分析
基礎研究(C)	機械工学科	教授	神 雅彦	継続	2025	摩擦力および界面張力のアクティブ制御および生産加工への応用に関する研究
基礎研究(C)	建築学科	教授	樋口 佳樹	継続	2025	コンポストトイレと傾斜土槽法による災害時における個別分散排水処理システムの提案
基礎研究(C)	データサイエンス学科	准教授	松浦 隆文	継続	2025	ドローンを用いた情報収集における新しい数理モデルと最適経路決定法の開発
基礎研究(C)	環境生命化学科	教授	新倉 謙一	継続	2025	抗原を内包したポリフェノール-クラウンエーテル超分子複合体と免疫誘導効果
研究活動スタート支援	データサイエンス学科	助教	細沼 恵里	継続	2025	実環境を考慮した適応的なセマンティック通信の研究
基礎研究(C)	情報メディア工学科	准教授	加藤 利康	継続	2024	タンジブル教材を用いたARテラシー学習のためのAI分析による支援システムの展開
基礎研究(C)	データサイエンス学科	教授	吉野 秀明	継続	2024	運送要件の厳しいIoTアプリケーションを実現するための最大遅延抑制制御
基礎研究(C)	建築学科	教授	那須 秀行	継続	2024	NLT (Nail Laminated Timber) の耐力壁利用に資する実験と解析および構造設計法の構築
基礎研究(C)	建築学科	教授	吉野 一	継続	2024	油煙の粒度分布に基づくグリッドフィルタの除去性能試験法の開発
基礎研究(C)	建築学科	教授	木下 芳郎	継続	2024	市街地における社会実験実施時の局所的・広域的な人の流れの調査と評価方法の開発
基礎研究(C)	建築学科	准教授	田中 章夫	継続	2024	高所作業検査の省力化を目的としたサテラヘルツ波による複層構造の理解
基礎研究(C)	機械工学科	教授	加藤 史仁	継続	2024	塑性変形を与えたPdAu合金膜の水素吸蔵反応機構の解明とデバイス応用に関する研究
基礎研究(C)	環境生命化学科	教授	大澤 正久	継続	2024	カチオン性金二核錯体上での分子変換反応
基礎研究(C)	環境生命化学科	教授	佐野 健一	継続	2024	細胞透過人工タンパク質による低分子抗がん剤の細胞内ドラッグデリバリー
基礎研究(C)	環境生命化学科	教授	芳賀 健	継続	2024	フォトロビンを介した緑色光シグナル伝達機構の解明
基礎研究(C)	電気情報工学科	教授	木許 雅則	継続	2024	マルチチャネルオーディオに対する電子透かしに基づく改ざん検知方式
基礎研究(C)	ロボティクス学科	准教授	田村 仁	継続	2024	不特定ユーザー適用可能な深層学習による表面筋電位を用いたハンドジェスチャ判別手法
基礎研究(C)	共通教育学群	講師	齋藤早紀子	継続	2024	「魅せたい」自分を表現するための歩行の運動学的機構の解明
若手研究	共通教育学群	准教授	山口 剛	継続	2024	学習と記憶との関係性に対するメタ認知の役割の解明
若手研究	機械工学科	准教授	小林 和也	継続	2024	粉体を用いたジェット動機性能の解明及び液体系との普遍性探究
若手研究	ロボティクス学科	助教	望月 典樹	継続	2024	Motion-Less VRの研究：下肢を対象とした装置の開発と性能の評価
若手研究	建築学科	助教	深和 佑太	継続	2024	空間特性を考慮した半屋外空間の熱的快適性評価
若手研究	建築学科	准教授	樋口 諒	継続	2024	ギリシャ・ラコニア地方における中後期ビザンティン建築の寸法体系と工匠の知識伝達
若手研究	情報メディア工学科	助教	澤田 隼	継続	2024	音響信号の知識を暗黙的に反映した音列を対象とした楽器分類モデルの構築
基礎研究(C)	ロボティクス学科	教授	大久保友幸	継続	2023	ロービジョンのための網膜ディスプレイによる歩行支援システムの開発
基礎研究(C)	情報メディア工学科	教授	杉森 順子	継続	2023	設置と保守を自動化する360度プロジェクションマッピングシステムの開発

◆**特別奨学生選抜**
今年度は、従来の特別選抜を特別奨学生選抜に名称変更した。特待生をめぐめる唯一の入試として、意欲ある受験生の挑戦を後押しする制度であることを分りやすく示した。また、探究成果型を新たに導入し、より多様な受験生を受け入れる入試へと発展した。

◆**総合型選抜（基礎学力型）**
従来の「書類審査・個人面接・筆記試験」による選考から、「書類審査・

2024年度に設立された指定校奨学金は、学校推薦型選抜（指定校）で合格し、入学後に実施するプレースメントテストにおいて優秀な成績を収めた者に対し、奨学金を給付する制度である。



大学案内内の資料
「2027大学案内」や「受験ガイド」など、新年度の冊子をご希望の方はQRコードから。

2025年度環境マネジメント活動推進の報告

省エネ・創エネ強化によりCO2排出量を大幅に削減

本学では2025年度、EMSおよびSDGsの年間計画に基づき、カーボンニュートラル(CN)実現に向けた多様な取り組みを進めてきた。

特に今年度は、省エネ・創エネの強化に注力し、空調設備の高効率化や、オンサイトPPAによる1.4MWの太陽光発電設備を導入した。これにより、埼玉県地球温暖化対策推進条例が求めるCO2の基準値比50%削減に対し、約54%の削減を実現し、CNに向けた大きな前進となった。



リユース傘を整備する学生たち

学生によるSDGs活動も活発に展開された。学生環境推進委員会(NIT SDGs STUDENTS)のメンバーは、福島県主催「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に参加し、昨年度の塩沢・十島地区に続き、今年度は只見町黒谷地区で実態調査を実施した。地域住民と共に、伝統的な共同作業である「普請(ふしん)」に参加し、堀払い作業や公民館の雪囲い設置をサポート。活動成果は2月の報告会(コラッセふくしま)で発表された。また、2003年から続くサーキュラーエコノミーの取り組み「リサイクルショップ」や「忘れ物傘などを活用するリユース傘プロジェクト」の活動も積極的に推進している。

正面ロビー・東側と14号館前に花壇を整備し、学位記授与式や入学式で多くの学生や保護者が、きれいな草花を背景に写真を撮影する「映えスポット」として親しまれている。EMS、SDGs活動の詳細については、右上のQRコードから大学ウェブサイトをご覧いただきたい。



花壇の前で記念写真を撮影する新入生

EMS推進協議会開催報告
本協議会は、学生環境推進委員会と大学の環境推進委員会メンバーがEMS、SDGs活動について意見交換を行う場となっており、2月13日に開催された。

今回の協議会では、学生の新たな活動として「学内廃棄物データプロジェクト」を実施すると発表された。これは、学内から排出される産業廃棄物をデジタルデータ化して可視化し、工学的アプローチによる産廃削減の立案や再資源化の可能性を検討する取り組みであると説明された。

本学は共催校として、NIT SDGs STUDENTSの学生(討議参加6名)の学生(討議参加6名)運営補助5名の協力を得ながら運営にあたった。総会後の特別講演では、平栗健史教授が「自然環境と社会情勢が激変する時代の食と農—工学的融合による新たな農業—」をテーマに、スマート農業や持続可能な食糧生産について講演した。

3月12日、13日の2日間、私立大学環境保全協議会主催「第42回総会・研修研究会」が本学埼玉キャンパスで開催された。全国私立大学の環境活動を担当する教職員約130名が参集した。

私立大学環境保全協議会

全国私大の環境担当教職員が参集 総会・研修研究会を開催

続く研修講演では、佐藤彰彦教授と学生2名が、本学の環境マネジメントの歩みや学生・地域連携の活動、新企画「学内廃棄物データプロジェクト」を紹介した。講演後は、次の3テーマに分かれてグループ討議を行った。

ゴミ箱の配置と分別を見直し

埼玉キャンパスでは、ゴミの減量化と再資源化率の向上を目的として、キャンパス内のゴミ箱の設置数を見直し、3分類から7分類(下記①~⑦)へと分別数を拡充し、資源循環を進めている。適切な分別のため、ご協力いただきたい。

- ①燃やすゴミ ②資源プラスチック ③資源(ビン・缶・ペットボトル) ④資源紙類 ⑤燃やせないゴミ ⑥有害ゴミ ⑦ペットボトルキャップ



ゴミ箱に貼られている分類シール



5号館の大教室で研修を受ける参加者

本学一行はスマート農業実験場、工業技術博物館のSL(蒸気機関車)を視察し、本学の特色ある教育・研究環境への理解を深めた。

地元宮代町の小中学生が埼玉キャンパスを訪れ、理科や環境について学ぶイベントで、毎年実施している。今年度は2月25日、26日に町内4小学校の6年生約250名が来学。SDGs for Engineersの学生による環境保全に関する講義を受講し、学生環境推進委員会のメンバーから太陽光発電など



本館の太陽光発電システムの見学

また3月4日、5日には町内3中学校の2年生約240名が来学。電子顕微鏡観察、放電実験、音に関する実験、プラズマ実験、植物の細胞観察など、各担当教員は中学生に親しみやすい実験や実習を用意し、生徒たちが興味をもって取り組めるように工夫した。

高校生対象のコンテストを実施します

NITプロダクトデザインコンテスト2026

豊かな発想でデザインされた作品を募集

今年度も高校生を対象としたデザイン提案のコンテストを開催する。提案書で審査するオリジナルアイデア部門、自由部門の他に、CADデータを審査する3Dモデリング部門、3Dプリンタの出力物で審査する3Dプリンタ造形部門の4部門で作品を募集する。参加登録は8月20日まで。



3Dプリンタ造形部門優秀賞(2025年)

第20回 マイクロロボコン高校生大会

ロボットの製作講習会を実施

本大会は1インチ角に収まる小型ロボットを製作し、自律的にコースを走行、タイムを競う競技である。エントリー締め切りは11月末、競技結果提出締め切りは2月3日。ロボットの製作講習会は送迎バスが利用可能な本学オープンキャンパス時にも実施予定。



1インチ角のロボットが白線コース上を走る

第40回 建築設計競技

家族構成にとらわれない家

建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計競技。今年は「家族構成にとらわれない家」をテーマとして作品を募集。審査は建築家の坂本一成氏、本学建築学部の小川次郎教授、吉村英孝准教授が担当する。提出期限は8月31日。審査結果は9月中旬にウェブサイトにて発表する。



優秀作品はLCセンターに展示

専門職大学院より

生成AI時代と経験媒介知識

大学院技術経営研究科 教授 清水 弘

「生成AI時代」という言葉をよく見かける。自分も「生成AI時代の技術マーケティング」といった講演を行っているが、「生成AI時代」の追加で講演内容は大きく変わった。これを振り返りつつ、新たな知識・スキルを考えてみたい。

まずは講演の骨子だが、これは変わらない。技術を活かした新製品・新事業の立案について、方向設定から具体企画まで、20ステップ位で

「生成AI時代」という言葉は、これまでに、検討者自身の情報収集と分析・成果物作成が、生成AI活用が前提となってきた。各ステップのプロンプトを紹介しているが、これで、検討期間は飛躍的に短縮し、講演で20ステップの実演を行うようになった。

生成AI時代は、吟味と人組織への働きかけの方向設定から具体企画まで、20ステップ位で

生成AI時代は、吟味と人組織への働きかけの方向設定から具体企画まで、20ステップ位で

生成AI成果物の不足点が見える。従来は、検討者が成果物を作成しつつ吟味していたが、その過程がなくなった。意図的な吟味が必須と説明している。人や組織への働きかけについては、生成AI成果物は、作成過程で検討者の思いが入らず、それだけでは、人の納得と行動に不可欠な共感を得にくい。

そのためには、生成AI成果物に、経験での知識を関連付け媒介させる「経験媒介知識」が重要になるのではないか。人は学習し経験し続けることが、一層大切になる。

※受賞記事は受賞時の学年(2025年度)で表記しています

学生、教員の受賞報告(2025年度冬)

電気設備学会 準優秀賞



電気電子通信工学科4年
(上野研究室)
金子 昂弘
【受賞論文名】スリップリンングシステムにおける銀黒鉛質フラシの二硫化モリブデン含有率とブラシ摩耗の関係【受賞日】1月16日



電気学会東京支部埼玉支所 優秀論文発表賞



電気電子通信工学科4年
(平栗研究室)
坂本 琉生
【受賞論文名】ドローン飛行制御と通信環境を同期したデジタルツイン技術の研究【受賞日】3月5日



電気学会東京支部埼玉支所 優秀論文発表賞



電子情報メディア工学専攻博士前期課程2年(松浦研究室)
小竹 望未
【受賞論文名】情報エントロピーに基づく探索多様性制御を導入した蟻コロニー最適化法【受賞日】3月5日



電子情報通信学会 ネットワークシステム研究賞



電子情報メディア工学専攻博士前期課程2年(伊藤研究室)
渋谷 陸斗
【受賞論文名】二層ルーティングモデルによる都市部配送システム最適化手法【受賞日】3月5日



表面技術協会 学術奨励講演賞



応用化学科4年(伴研究室)
高森 明日海
【受賞論文名】脊髄神経再生足場へのDLCC薄膜適用に向けた酸素プラズマ照射の効果【受賞日】3月11日



日本建築士上学会 修士論文賞



建築デザイン工学専攻修士前期課程2年(田中研究室)
瀧澤 清佳
【受賞論文名】サブテラヘルツ波による仕上げ付きコンクリートの内部評価に向けた複層構造の理解【受賞日】3月11日



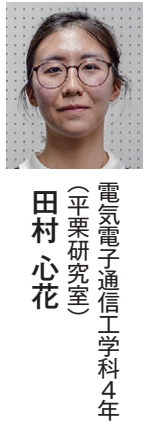
電気学会東京支部 電気学術奨励賞



電気電子通信工学科4年(清水研究室)
浦山 則之
【受賞理由】同支部学生員として研究・学業に精励し、本学科同学年の学生の中で優秀な成績を収めた【受賞日】3月31日



電気学会東京支部 電気学術女性活動奨励賞



電気電子通信工学科4年(平栗研究室)
田村 心花
【受賞理由】同支部学生員として研究・学業に精励し、本学科同学年の女子学生の中で優秀な成績を収めた【受賞日】3月31日



電子情報通信学会 若手優秀賞(高専・学部部門)



電気電子通信工学科4年(高根沢研究室)
大野 力翔
【受賞論文名】押しボタンスイッチの電気接点に生じる開離時アーーク放電の諸特性【受賞日】3月16日



表面技術協会 論文賞



機械システム工学専攻博士後期課程(令和6年度修了)/竹内研究室
宋 翰聞
日本工業大学 学長
機械工学科 教授
竹内 貞雄
(他3名共著)



全日本能率連盟 特別賞



専門職大学院技術経営研究科 教授
石井 宏宗
【受賞論文名】MPTILモデルを活用した中小製造業向け統合マネジメントシステムの構築【受賞日】3月11日



電子情報通信学会 フェロー称号を授与



電気情報工学科の平栗健史教授が3月11日、電子情報通信学会よりフェロー称号を授与された。この称号は電子情報通信分野において顕著な学術的、技術的業績を挙げた会員に授与され、学会を代表する研究者の一人として認められた証といえる。平栗教授は、通信技術を基盤とした農業ICT分野の学際的研究開発において顕著な成果を挙げ、高く評価された。

美術部制作絵画「風薫る」春日部駅前に掲示



(左より)美術部のグエン部長、渡久さん、櫻井さん、初澤さん、顧問の木下教授

作品は縦1.8m×横5.5m、美術部部員のうち9名が1カ月半をかけて制作。初夏の春日を舞台に、麦わら帽子を被った少女の旅路を描いた。工事中のフェンスを彩る「春日部駅前美術館」として3月13日より掲出されている。

地域活性化の一環で サイクルラックを製作

自転車ツーリズムによる地域活性化を進める福島県郡山町の依頼を受け、本学の学生有志チームが、スタンドのない自転車駐輪するための「サイクルラック」を製作。3月24日に同町の島原橋葉町からの依頼を受け、翌25日にシニア向けの組み立てワークショップを実施した。



サイクルラックとワークショップに参加したシニア

福島県浜通りでは、自転車ツーリズムによる地域活性化を推進している。同町においても自転車を通じた交流人口拡大を目指す、町ぐるみでツーリスト歓迎のための事業を検討していた。町民の歓迎の気運を伝える

はじめまして！4月に着任しました

教職教育センター

染谷 明生 教授



建築学科

大村 聡一朗 准教授



電気情報工学科

小原 翔馬 助教



電気情報工学科

佐藤 佑樹 助教



これまで工業高校教員として授業実践を重ねるとともに、管理職として学校運営に携わってまいりました。その経験を活かし、学校現場に根ざした教員養成に取り組みます。また、高等学校での管理職経験を踏まえ、組織と人を育てる視点をもった教職教育に尽力し、人材育成に貢献していきます。

専門は建築設計・建築意匠論です。当研究室では、建築設計競技への参加、空間の実際の設計、まちづくりへの参加、リサーチ、空き家活用提案等の実践への取り組みと同時、現代建築意匠、作家論の定量分析等の理論研究との相互循環の中で建築を思考する取り組みを行います。

カオス現象をはじめとする非線形ダイナミクスの現象理解と、その複雑性に基づく情報処理応用を専門としています。特に、光を用いた超高速な機械学習手法の提案に関する研究を行っており、一人でも多くの学生に有意義な研究活動を行っていただけるよう励んで参ります。

太陽以外の星を公転する惑星を系外惑星と言います。私は第二の地球を探すという動機のもと天の川銀河における系外惑星の分布解明、いわば地図作りを行っています。観測データの統計解析や観測機器の開発を通して宇宙という大きな対象を自らの手で読み解く魅力を共有していきたいです。

そのため、スポーツサイクルに必須となるサイクルラックを手作りで設置したいという意向があった。

本学は学生の学びの成果を地域・社会に還元する観点から、これまで同町を中心とした浜通り地区における震災・原発被災と復興に協力してきた。こうした実績から今回も同町からの依頼を本学学生が引き受けることになった。学生たちにとっても、町民と交流しながら地域に貢献した経験は、授業では得られない貴重な体験になった。

データサイエンス学科
橋本 泰裕 助教



データサイエンス学科
久本 峻平 助教



専門は視覚情報処理、心理物理実験、メディア表現の認知・評価などで、ヒトの視覚を通して面白く現象を対象に研究しています。メディアを作るだけでなく、メディアを見るヒトの知覚や認知メカニズムを探ることから、新たなメディア表現や表示手法に繋がられるよう挑戦していきます。

スポーツ分野におけるパフォーマンス向上のための心技体の理解が研究テーマです。興味の中心は試合の流れの定量化と、結局どうしたら試合に勝つことが出来るのかということ。研究や教育は勿論のこと社会実装や地域連携にも取り組ましてみたいと考えております。

専門は動物行動学、生態学、ソフトコンピューティングで、生物の動的システムの解明を目指しています。実験、AIを使った解析、シミュレーションなど様々なアプローチを用いていますので、それぞれの興味にあった学びを深めていきましょう！

地域のイベントを お手伝いしよう！



宮代町社会福祉協議会では、夏まつりや敬老会など地域の行事や

イベントを手伝ってくださるボランティアを募集しています。

樹一の美味しいランチをゲットしましょう！
問合せ：宮代町社会福祉協議会 0480-0321-8109

